

🌐 子供はインフルエンザに弱い (タミフルパンフレット)

インフルエンザは、普通の風邪とは異なり、重症化することがある病気です。特に抵抗力が未発達のお子さまがかかると、肺炎や脱水症等の合併症を起こし入院することもあり、インフルエンザ脳症*という重大な合併症を引き起こすこともあります。

※インフルエンザ脳症

インフルエンザウイルスの感染が引き金となり、突然の高熱から、1～2日以内に昏睡などの意識障害を引き起こします。

しかし、**横田俊平氏**：
**「タミフルは
インフルエンザ脳症の
予防に否定的」と**

インフルエンザ脳症に対するタミフルによるエビデンスは**確立されていない。否定的である。**

理由1: 発熱をみてからオセルタミビルを服用してもすでに病態形成が進行している。

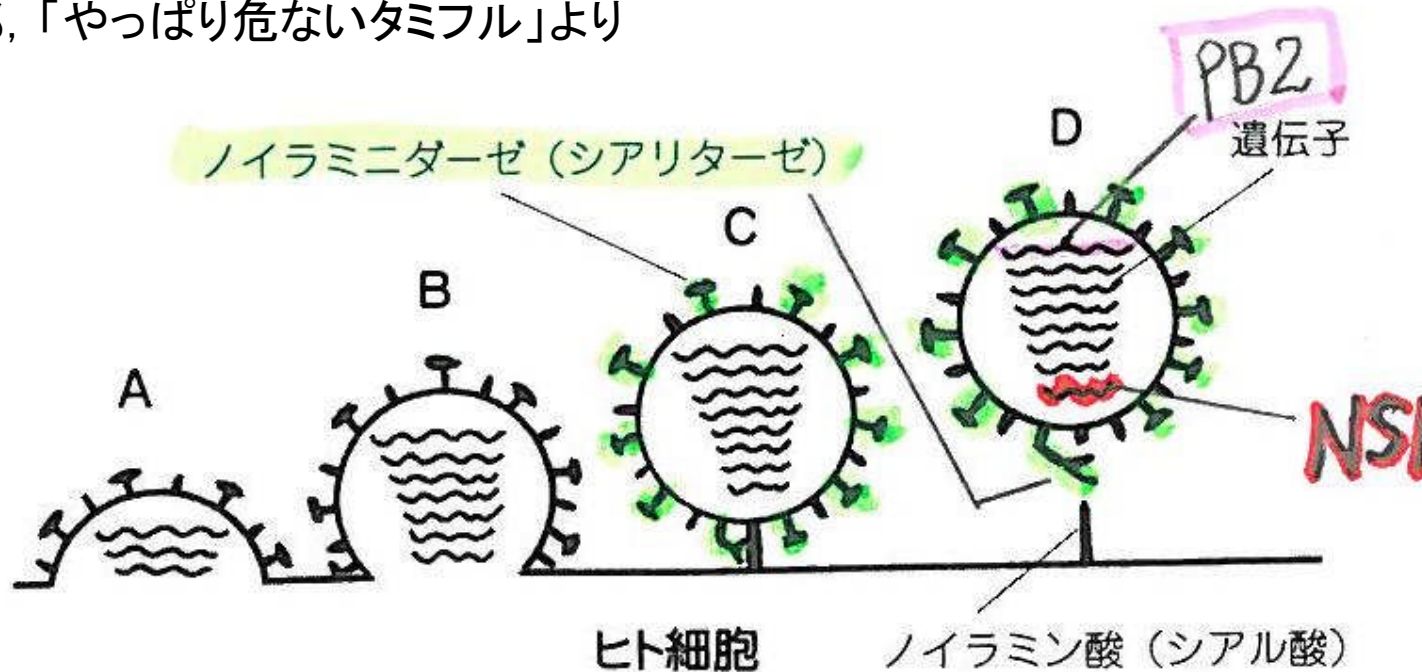
2. 脳症はウイルス感染が引き金だが、病態の中心は過剰な炎症性サイトカインの産生・放出(**サイトカイン・ストーム**)。
3. タミフルはウイルス感染を阻止する薬剤でなく、**サイトカイン・ストームの発来は防止できない。**

注目: インフルエンザでは炎症性サイトカインが産生・放出されている→**血液脳関門(BBB)が障害される**

横田俊平, 小児内科, 2004: **36**(12): 1962-1963 より抜粋

タミフルの作用点

浜六郎, 「やっぱり危ないタミフル」より



インフルエンザウイルスが出芽し (A、B)、通常、ノイラミニダーゼがノイラミン酸 (シアル酸) を切り離すため (C)、ウイルスが細胞から離れる (D)。タミフルは、ウイルスにあるノイラミニダーゼを働けなくするので、Cの状態にとどまる。

図 6-3 ウイルスにあるノイラミニダーゼと阻害剤の作用機序